

公開保育コーディネーターの実践から得たものを 授業にどう活かすか

“How to apply my experience as a public
childcare coordinator to the college classroom.”

山本 玲子

Reiko Yamamoto

要 約

幼児教育の重要性がますます認識されてきた現代、公教育を担っている私立幼稚園は、その公的役割が高まっているので、それにふさわしい基準で教育を行っていくことが求められている。

公益財団法人全日本私立幼稚園教育研究機構では、保育の質の向上を目指して、公開保育や園内研修などで話し合いやワークを通じて語り合うことや、語り合ったことを学校評価などを通じて保護者や社会と共有していくことが重要であると考えている。現代、その推進役としての公開保育コーディネーターの養成に取り組んでいる。

コーディネーターの資格を得るために参加した養成講座や、実践した公開保育の一連の流れ、現場の教師との研修会等で学んだこと、感じたことを「保育の表現技術(言語)」という授業の中で学生にどういう方法で伝え、実践していけばよいかを考察した。

はじめに

女性の社会進出が進み、子どもが長時間保育施設で過ごすようになり、母親に代り保育者が幼児教育を担う時間が増えてきた。そのため、益々幼児教育の重要性が認識されている。

私立幼稚園の公的役割が高まってきているので、それにふさわしい基準で教育を行っていくことが求められる。各園が、それぞれの建学の精神に基づいて、よりよい園づくりを進めていくためには、学校評価の推進は欠かせない。

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が取り組もうとしている学校評価は、公開保育を行い、評価者や参加者の外部の視点を導入することによって園の良さや課題を明確にすることにより第三者評価として役割を果たすことを目指している。

幼稚園教育要領の理念に基づいた保育活動や運営等を重

要な視点とし、園の教育の質の向上を目指し「公開保育を活用した第三者評価」について検討を重ね、公開保育コーディネーターの養成を行っている。

保育の公開を行い、参加者が感じたその園の良さ、共感できること、疑問点、公開園の課題と考えていることを参加者と共有し、意見交換することで改善や方向性を明らかにし、教育の質の向上につなげていく。

公開保育コーディネーターには子どもの姿から保育を考え、会議や研修の場ですべての教員の意見を尊重し、話し合いに主体的に参加できるように、あくまでも公開園の教員が主体的に課題に向き合えるように支援していくという重要な役割がある。

私は、長年私立幼稚園で子どもに関わる仕事をしていたので、2015年に公開保育コーディネーターの養成講座で学ぶ機会が得られた。

講座を受講して、公開保育コーディネーターの指導を受けながら、公開保育園で実践を行った。公開保育の一連の

流れのなかでのコーディネーターの役割、公開保育の研修会で学んだこと、感じたことを「保育の表現技術（言語）」の授業の中で学生にどのような方法で伝え、実践していけばよいかを考察した。

I、養成講座における実践のプロセス

1) 公開保育コーディネーター養成講座

(東京砂防会館) 2015, 6, 19

*オリエンテーション

研究委員長の安達 譲が公開保育を活用した評価の流れの概要を説明する。その後、各地区で今年度の取り組みを話し合い、近畿地区は教員研修大阪大会の公開保育に参加してコーディネーターの助手をすと決まる。

*事前講義

講師 大妻女子大学家政学部児童学科教授 岡 健氏
 幼児教育研究機構が目指す第三者評価、保育の質の向上へむけた園内研修の方向性、公開保育を活用した第三者評価の一連の流れ、具体的な方法などの講義を受ける。

1、公開保育を活用した第三者評価の一連の流れ

- STEP 1 事前訪問 園長・主任等にヒアリング
- STEP 2 事前研修 教職員によるワークの実施
園の良さや課題の整理
- STEP 3 準備 公開保育に向けて資料、会場等準備課題を参加者と共有するための「問い」を立てる
- STEP 4 公開保育当日
公開保育の趣旨説明
公開保育の実施
保育後の協議会の実施
- STEP 5 振り返り
課題に応じた園内研修

2、課題解決に向かう園の姿勢や関係性に関する視点

- ・園として主体的に研修や話し合いに参加し学び合う風土があるか

3、幼稚園教育要領の理念に基づいた教育活動や運営に関する視点

- ・幼児期にふさわしい生活が展開されているか
- ・遊びを通しての総合的な指導が行われているか

- ・一人一人の特性に応じた指導が行われているか
- ・幼児が主体的に活動できるような環境の構成がされているか
- ・教育課程や指導計画など

4、教職員による事前のワーク（STEP 2）の例

- ・田の字法を使い、園の良さや課題、課題解決に向けての見通し目標を整理する。

・田の字法

田の字法は、園の肯定的な側面から話し合いを始め、園の抱える課題について教職員が出し合い整理することで、課題が明確になり、今後の解決に向けての取り組みが共有される

①現在、取り組んでいること

園の強み、自分たちの強み、誇れるところ

②現在の具体的課題

まだ出来ていない、取り組めていない、難しい

③不安なこと、障壁

課題と感じていることに取り組めていない

④目標

園として将来どうなっているとよいか

5、「田の字法」のワーク

- ・模造紙を4つに折り、下記の図のように①～④の設問に対し公開園の教員が記載した付箋を貼る

①現在、取り組んでいる事 好きなところ 気にいっている	③目標 ～なったらいいのにな ～になりたい
②現在の具体的課題 困っている 悩んでいる	④不安なこと、障壁 どうして解決できない こうなりたくない

*ワークショップ

5～6名のグループに分かれて、「田の字」と「KJ法」で付箋を使用して実践する

2) 第2回 公開保育コーディネーター養成講座

(東京私学会館) 2016, 2, 16

*グループワーク 研究研修委員 秦 賢志

- ・「問い」づくりのグループワークを行う
- ・公開園に対して自分の意見を押し付ける助言をするのではなく、公開園の教員が主体的に自園の良さや課題に向き合えるようにファシリテート（支援）することがコーディネーターに期待されている役割である。
- ・保育の質の向上の答えは公開園の教員のなかにあり、それを見つけ出せるような手伝いに徹することが大切である。
- ・STEP 1では、公開園を知るためにインタビューを対話的に行う。
- ・STEP 2では田の字法などのワークを用いて教員が主体的に課題抽出を行えるように支援する。
- ・STEP 3では適切な問いを立てるために、公開保育の参加者の立場になって客観的な視点を提示する。
- ・STEP 4では分科会や全体会が公開園の教員につながる示唆になっているかを確かめながら進行する。
- ・STEP 5では公開園が自分たちで課題解決ができるような方向性を見定めることを念頭に置いて振り返りをする。

*グループワークの振り返り

- ・「問い」の前の田の字法の話し会でまとめていくのが難しい
- ・探りながら先生から引き出していく
- ・課題の気付きを見逃さない
- ・焦点の絞り方がつぼになる
- ・話しを引き出していく力が必要
- ・子どもの姿など具体性のある話題は、イメージが沸きやすいので具体例を出していく
- ・「問い」と公開保育にずれが生じる。当日の保育に「問い」の場面がないことがある
- ・公開園と参加者の視点のずれをなくすために、具体的にほどんな場面でしたかと確認をとる

*講義

講師 大妻女子大学家政学部児童学科教授 岡 健氏

- ・コーディネーターは参加者全員が質問や意見が述べやすい雰囲気を作りながら、公開園の課題について話し合いを深めたり、公開保育当日だけでなく、その後も公開園が自らの教育の質を主体的に高めていく役割を担う。

- ・園側と建設的な話し合いをすることで、その園の優れた取り組みや改善の方向性が明らかになり、教育水準の向上に繋がることが期待される。
- ・公開保育後の話し合いを円滑にしたり、課題解決の方向性を提示するなどの支援も行うので、その役割は単に評価する評価者よりも幅の広い役割を担うことになる。

3) 保育現場での実践 1

第30回近畿地区私立幼稚園 教員研修大阪大会

(公開保育) 2016, 7, 24

コーディネーターの助手として実践する。

保育のなかで具体的な子どもの姿を見て園が目指す姿と合致しているか。ねらいに対しては求め過ぎていないか、ねらいの設定は良かったかなど具体的な姿を集めるという課題がでる。

①公開保育の実施

(コーディネーターの役割)

- ・公開保育は園のよさを大切にしながら、課題を明確にし、保育の質の向上のために行うことを伝える
- ・「問い」に関連して見たことを付箋に書く
- ・具体的な子どもの姿、場所、活動、先生の様子を手元に記録する
- ・保育終了後、担任と話し合いながら、午後からの分科会で取り上げたいテーマを、付箋を読みながら整理して項目別に分けて模造紙に貼る

②分科会

(コーディネーターの役割)

- ・担任が質問を出した際に、様々な方に意見を求める
 - ・一人が発言しすぎないように、コントロールする
 - ・意見がそれた時に、軌道修正をする
- 上記の3点を意識して、話し合いに入るよう指導を受けたが、介入する必要がなくスムーズに会は流れる。

③全体会

- ・各分科会で話し合った内容を公開園の教員が発表し、参加者全員で共有する
- ・気づき（良くわかったこと）、分からなかったことを各自付箋に記入して、模造紙に貼る
- ・参加者が話し合いながら項目別に分類する
- ・コーディネーターは公開園の教員と参加者の橋渡しを行う

い、進め方がこれでよいか確認をとりながら進めていく

*振り返り (STEP 5) 2015, 7, 25

- ・公開保育において参加者からの意見を受けた後、園の全職員で「振り返り」のワークショップを行う
- ・昨日の意見の整理を行い教員全体で共有する
- ・「園に対してよい評価」、「課題や改善」について話し合う
- ・KEEP (維持・継続) したいことを話し合う
- ・疑問点を出し合う
- ・PROBLEM (課題・問題) について話し合う
- ・TRY (挑戦) したいことを話し合う

園に対して良かった点 (3歳児)

- ・こども同士のかかわり
- ・環境が整っている
- ・子どもの姿
- ・支援児へのかかわり
- ・保育者のかかわり

KEEPしたい (維持・継続) (3歳児)

- ・担任と支援担当の連携
- ・自分の意思 (思い) が言えるようなかかわり
- ・年齢に応じた環境づくり
- ・個々に応じたかかわり (援助)

疑問点 (3歳児)

- ・環境
- ・おもちゃの使い方のルール
- ・後かたづけ
- ・保育者のかかわり

PROBLEM (課題・問題) (3歳児)

- ・切り替えが難しい子への個々の対応
- ・片付けの伝え方
- ・個々に応じたかかわり (援助)
- ・環境づくり
- ・支援児を巻き込んだ保育

(コーディネーターの役割)

- ・話し合いは今日の保育を肯定的に観ることから出発してさらに良くしていくために、課題が生まれ、解決する手立てを工夫し、課題にこつこつ取り組むことが保育の質に向上につながるという姿勢でかかわる
- ・項目だけで整理するのではなく、充実度と課題度で整理することで、何から実行していくか優先順位を決めて取り組むための情報になるような話し合いにする
- ・挑戦することにすぐに取り組むか、時間を掛けて取り組むか、個人での取り組みか、園全体で取り組むべきことなのか保育の課題を振り返る
- ・コーディネーターは、話に行き詰まりを感じたり、うまく進んでいかなかったり、困っていれば話の輪に入って話を引き出す
- ・教員に寄り添うことで、「ああ、そうなんだ。」と自分で方向性を見つけていけるように援助する

4) 保育現場での実践 2

和歌山市のS幼稚園

2016, 6, 15

*事前訪問 (STEP 1)

公開園に公開コーディネーターが4人で訪問し、公開保育の流れの説明や、園長・主事・教頭にヒアリングを行う。建学の精神・教育目標・園の歴史・園として大切にしていること、園の組織などを聞く

*事前研修 (STEP 2)

教員によるワークショップを行い、自園の良さや、課題解決に向けての見通し、目標などを教員間で話し合い共有する。田の字法を行い、課題を明確にする。

A、好きなところ 続けたい 気に入っている	D、将来どうなっている
B、困っている 悩んでいる	C、不安なこと 障壁

- ・A～Dまで順番にキーワードを付箋に記入し、模造紙に貼る。付箋を項目別に分けて整理する。

- ・コーディネーターが、今日の話し合いから園の課題を洗いだしていく。
- * 「問い」づくりは園内研修で行う。(STEP 3)

*公開保育 (STEP 4) 2016, 7, 29
第3 1回近畿地区私立幼稚園 教員研修和歌山大会

①保育見学

- ・年長組 (27名) 「色づくりを楽しもう」
- ・年中組 (24名) 「風で走る車づくり」
- ・見学者は各クラスの質問シートに、「問い」に関する内容を付箋に記入して貼る

②分科会

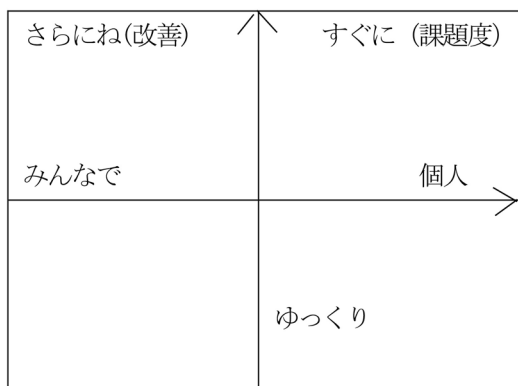
- ・コーディネーターが公開園の課題を明確にする。園のあら探し、批判はしないことを話す
- ・担当が嬉しかった付箋を選んだ理由を説明する
- ・担当が今日の保育のねらいと今日に至るまで、「色あそび」をどのように楽しんできたか、その過程を説明する
- ・参加者からは、質問をしたり、自園での活動の話がでる

③全体会

- ・分科会で話し合った内容を報告する
- ・振り返りに向けて今日の話し合いから、園で話し合いを深めたいこと、園の良いところ、継続していくことを園内研修する

④振り返り (STEP 5) 2016, 8, 19

- ・8月3日に園内研修で、良かったこと、気付けたこと、継続していきたいことを話し合う
- ・8月19日はコーディネーターが参加して、「田の字法」で振り返りを行う
- ・自園の課題や改善点を下図のように記入していく



- ・課題や改善点を時間軸で表し、すぐに取り組むことか、

時間をかけてもいいのか、また、園全体で取り組むのか個人での取り組みかを明確にする。

- ・コーディネーターは公開保育を通じて、教員の何が変化したかなど気付いたことを伝える。また、結果を見て慌てることなく、目の前にある課題にこつこつと取り組むことが大切だと助言する。

II、公開保育で実践から得たこと

公開保育コーディネーターの資格を取るために、公開保育に、指導者のコーディネーターの助手をして、園内研修、分科会、全体会などで教員が発言する場を共有することができた。

実践を通して感じたことは、公開保育の分科会は、外部の園からどの分科会に参加するか、あらかじめ希望しての出席であったので、発言も多く協議が盛り上がり、進行係以外のコーディネーターの介入は必要ではなかった。

他方、園内で研修を行う、「園の良さや課題の整理」、「問いづくり」、「振り返り」の研修会では初任者の教諭の発言が少なく聞く側に回っているのが気になった。

大阪での「振り返り」の研修会では、指導者から3歳児の話し合いの中に入り、経験年数の少ない教諭の発言を引き出してほしいという課題を与えられた。この先生達は日頃の研修会でも、発言が少ないということであった。

グループの構成員は4人で、経験者が2名、初任者が2名であった。話し合いは先輩の教員中心に進められていき、後輩の2人は聞く側にまわっていた。その状態で会が進んでいくので、発言の少ない先生の意見を引き出すために話しの輪の中に入る。

自分の考えていることを素直に言葉で表現してくれればとの思いで関わったが、なかなか発言を引き出せなかった。

今まで、面識のなかった人が急に話しのなかに入ってきたので、戸惑いもあったと思う。

養成講座で、話し合いが行き詰まったり、意見が出なくなったりして、発言が出なくなったときには、話を噛み砕いて具体的に伝えることを学んでいたので挑戦してみた。意見があるだろうと予想して「こういう事？」と私の言葉で思いをまとめて確認したり、イメージが沸くように具体的に話してみたりといろいろ試みてみたが、彼女たちからは思うように意見を引き出すことができなかった。

和歌山ではS幼稚園とT幼稚園の先生たちと研修会、振り返りを行なったが、初任者の発言が少ないことが気にかかった。

経験者が多いグループでは、先輩達が活発に発言し、初任者は発言を聞く側に回っている事が多かった。また、発言しても経験者に聞き流されていることもあった。

課題を出したが意見が出なくて協議時間を延長したこともあった。

* コーディネーターの反省会で出た内容

- ・発言のなかった先生に対して自分の思っていることが言えるようになるように、こちらから投げかけて、感じたこと、思ったことを発言してもらうようにする。
- ・思っていることを発言できる雰囲気をつくることが大事になる。
- ・新任の先生は研修会で話せないのは当たり前である。発言に自信がないからだと思うが、新鮮な眼で見て感じたことを、発言したい思いがあっても話せないのはもったいないことである。
- ・新任の先生が一生懸命話をしていたのに聞き流されていた場面があった。もう話はしないでおこうと思ったであろう。経験のある先生達は、気をつけて初任者に発言させてあげることが大事である。
- ・日常生活のなかで日頃からいろんな場面で、自分の思いを言葉で表現する経験をする必要がある。

* 幼稚園の現場の聴き取り調査 2016, 11

数年前から、現場の管理職やベテランの先生から、新任の先生方の、コミュニケーション能力が乏しくなっている。報告すべきことができない、挨拶の後にひと言がつけ加えられない、会議などで発言が少ないなど、今回の公開保育の実践で経験した、初任者の発言が少なかったことにつながるがあった。

11月に和歌山市内の15園の管理職と中堅以上の教諭、4園の新任教諭に聴き取り調査を行った。

①挨拶、コミュニケーション力、会議での発言

(15園の管理職、中堅以上の教諭)

- ・挨拶はできる (15園)
- ・挨拶のあとにひと言つけられる (3園)
- ・日頃の会話が少ない (5園)

- ・会議で発言が少ない (10園)
- ・会議で発言がない (3園)
- ・言われていることの意味が分からない (1園)

(4園の新任教諭)

- ・挨拶はできる (4園)
- ・挨拶のあとにひと言つけられる (0園)
- ・日頃の会話は少ない (0園)
- ・会議で発言ができる (1園)
- ・会議で発言が少ない (3園)

②その他 (15園の管理職、中堅以上の教諭)

- ・核家族で育ってきて、家でも会話が少ないので園で会話が少ないのだと思う
- ・ゲームをしたり音楽を聴いたりひとりで過ごす時間が多いので、会話が少なくなるのだと思う
- ・伝えたいことが伝わりにくい
- ・一から十まで言わないと分からないことがある
- ・きちんと伝えないと、誤解が生じる
- ・解っているかと思っていたら、そうではないことがある
- ・いろんな事を教えるのに手間と時間がかかる
- ・いろんなことに、世代間の差を感じる
- ・年代のギャップで驚くことがある
- ・先輩としてどういう会話や接し方をすればよいのか考えることがプレッシャーになる
- ・きつく言うとやめてしまう。先輩が気を遣って潰れてしまう

聴き取り調査の結果、管理職や中堅の教員達は、保育の現場で挨拶の後にひと言付け加えられなかったり、日頃の会話も少ないし、会議の場でも発言が少ないと感じていた。その理由として核家族で育ってきた人が多いこと、家族と交わるよりも音楽を聴いたりゲームをして一人で過ごす時間が多いので、コミュニケーション力がないのだろうと推測していた。

世代間の差を感じ、自分達が当たり前と思っていることが伝わらなかったりと、驚きとギャップを感じていた。また、先輩としてどういう会話や、接し方をすればよいのか考えることがプレッシャーになると先輩は先輩で気を遣っていることが感じられた。

他方、初任者は4園のみの聴き取りであったが、日頃の会話が少ないこと、会議でも発言できないことを自覚していたのは3園で、後の1園は小規模園で日頃から先輩、後輩の隔たりなく会話が出来ているので、会議の時も発言できていた。

Ⅲ、大学の授業への応用

公開保育コーディネーターの実践と現場の教諭から聴き取った事柄から、学生が保育現場に就職した時に付けておく力としてコミュニケーション能力が必要とされることを実感する。

保育者の資質を向上させるために、学生時代に、学ぶことの第1として、保育者論の中に、「人とかかわることを中心とする仕事に従事する者として、保育者にはとりわけ対話力が必要である。」⁽²⁾と記されている。

子どもたちと対話するにあたり、自分の言葉が相手に影響を与えること、また、言葉遣いが子どもに模倣されることもある。教師側から発する言葉だけでなく、子どもが何を伝えたいのか、つたない表現から子どもの思いを読み取る力も持たねばならない。

子どもとの対話のためには音による言語表現だけでなく、非言語によるコミュニケーション力も身につけなければならない。

山形大学から出ている「なせば成る」には、大学での学びと社会人基礎力のなかに「C、チームで働く力（チームワーク）、

- ⑦発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）
- ⑧傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）
- ⑨柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）
- ⑩状況把握力（自分と周囲の人びとや物事との関係性を理解する力）

などは広い意味でのコミュニケーション能力と考えてよいでしょう。」⁽³⁾と書かれている。

「さらに重要なのは、コミュニケーションは一方通行では成り立たず、双方向的なものだということです。相手に自分の考えをわかりやすく伝える能力（⑦発信力）は重要ですが、同時に相手の意見を丁寧に聴く能力（⑧傾聴力）や意見や立場の違いを理解する能力（⑨柔軟性）がなければ、コミュニケーションは成立しません。また、集団のな

かでコミュニケーションを保ちながら行動するには、自分と周囲の状況を正しく把握する能力（⑩状況把握力）も必要です。」⁽⁴⁾と記されている。

子どもとの対話では、自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）が必要であり、子どもの話に耳を傾ける時には、（傾聴力）が必要となる。また、子どもの意見がぶつかり合った場合は、その後、仲直りに向けて双方がどういう風に歩み寄り、折り合いをつけるかという、意見の違いや立場の違いを理解する（柔軟性）が必要となる。

私の担当する「保育内容演習」の具体的な内容として、「(5領域：健康、人間関係、環境、言語、表現)がありさらに、「表現」領域では、「表現技術」という形で「音楽」「造形」「身体」「言語」等が各々異なった表現技術として書かれている。しかしこの区別は言葉の上ではできても、原理的には不可能に近い。同様に表現内容と表現技術を分けることは、特に幼児を対象にした場合、不可能である。」⁽⁵⁾『「領域」という用語は、幼児の側からみて、教科内容ではなく、生活体験的なものであるので、分けられないにもかかわらず、なぜ、教科的に扱われるのかを考えるべきである。』⁽⁶⁾

幼児の活動は総合的であり、各領域が重なりあって相互関係にあるが、それが幼児の生活文化であると捉えている。

授業では、手遊び、歌遊び、伝承遊び等の実技を取り入れているが、これらの遊びは、他の領域の「人間関係」「表現」とつながっている。

「かごめかごめ」や「花いっちゃんめ」等の歌遊びのなかに含まれている音楽性、応答性、同調性が、他の領域にまたがっているが、それが幼児の遊びなのだから学生にも総合的に捉えて指導できるようになってほしいと考えている。

12月に他の担当者の授業「キャリアデザイン」の一コマを担当した。今までは、保育科2年生全員に、講話という形式で行ってきたが、今年度は、選択授業になったので、「目指すべき保育者像」というテーマで11名の学生とワークショップを行う。

自分の意見を発表し、他の学生と共有し相互に学び合う。コミュニケーション能力を向上させると共に話し合いの中から各自が課題を見つけるというねらいで行う。

KJ法を用いて、各々が考えている「目指すべき保育者像」を付箋3枚に記入する。各自のコミュニケーション能力

を高めるために、付箋はコーディネーターの実践で使用したものより小さめにする。記入する文字数も多く書けないように、マジックも細字ではなく中細字にすることにより、学生が自分の考えを言葉で相手に伝える力がつくように配慮する。

通常のワークショップの人数は5～6名程度が良いとされているが、あえて11名を1グループした。多数の意見に触れて刺激を受けることに重点を置いたためである。

各自が、付箋に書いたことに説明を加えたあとで、項目に分けて整理する。全員で33枚の付箋を書き、それに言葉での説明を加えたので、保育者像が出てきた。

「いつも明るく笑顔溢れる保育者」「子どもにも保護者にも同僚にも信頼される保育者」「子どもが主体の保育が出来る保育者」「子どもが理解できる保育者」「子どもと楽しめる保育者」「子どもと共感できる保育者」「責任感のある保育者」「保護者を支援できる保育者」「優しく時には厳しく出来る保育者」「余裕の持てる保育者」等ワークの中から「目指すべき保育者像」を描くことができた。

そして、今の自分に足りないこと、身に付けておかないといけないこと等、現場にでるまでの各自の課題が見えたと思う。

今年度、学内では「FD研修会」を行い、「アクティブラーニング」について学び合う。学生の能動的学修を促す試みを中心に、相互参観を通じて気付いた点、自分自身の授業改善につなげるという目標で授業参観を行う。その後、報告書を書き、学内の研修会にそれを持ち寄り、KJ法で、能動的学修を試みていたことを書き出し、整理し実践例を共有する。

学生が相互に学び合えるように、グループ活動、ロールプレイ、話し合い等、発言の場面、応答の場面を多く取り、コミュニケーション力を高める授業が行われていることが分かった。自分の授業の中で、どの内容が能動的学修を促す試みができるのか、授業の内容を工夫しその方法を考えるのが今後の課題である。

学生は現場に出れば、幼児、職場の教職員、保護者と毎日関わりを持たねばならない。仕事をしていく上で同調性も持ち合わさねばならない。特に日本語を習得していく過程にいる子どもたちにとっては、日々、長時間生活を共に過ごす保育者は言葉の先生である。

昔の人は、言葉を「言霊」とも呼び、言葉の響きに込め

られた心を大切にしていた。感性の鋭い幼児は、先生から発せられる言葉を聞き、その奥にある教師の心根を見抜く力があることを現場で子ども達から教えてもらった。

「どんな言葉を習得するかによって、その子の人生の内容が大きく変わってきます。ですから、お母さんは、子に対して、心のこもった、正しい、美しい言葉で話しかけていただきたい。」⁽⁷⁾

「母親は子どものことばの先生であることを、もっとしばしば思い出す必要があります。母親になってしまってからでは手遅れです。もっと若いうちから、ことばについて大きな責任をもっていることを、認識していきたい。」⁽⁸⁾

「言葉には、そこに愛がこめられている時、起死回生の力があるのです。寸鉄人を殺すという言葉があるように、短い言葉でも、相手を殺しもすれば、生かすこともできます。」⁽⁹⁾

おわりに

保育の現場で子ども達と多くの時間を過ごす保育者は、母親に替わる言葉を教える役目を果たしていかなければならない。

著書の中で外山滋比古氏は、言葉を教える役割を果たすには母親になってからでは手遅れで、もっと若いうちから認識をしていなければいけないと書いておられる。

授業のなかで言葉の重要性を学生に意識させ、話し方のテクニックや非言語表現の工夫を手遊び、歌遊び、伝承遊び、人形を使つてのお話のしかた等の実技を通して実践していきたい。

コミュニケーション力が向上するように、グループ活動を取り入れて意見交換や討論を通じて、お互いに学び合えるように授業の方法を工夫していきたい。

保育に携わる人の人格を、まるごと受け入れてしまう子どもたちと、生活を共にする存在として学生達が、自覚を持つために。

参考文献

- (1) (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成26年度 文部科学省委託「幼児教育の改充実調査研究」公開保育コーディネーターハンドブック (201

6)

- (2) 代表編集 秋田喜代美「今に生きる保育者論」 第2版 (株) みらい 68ページ
- (3) 山形大学基盤教育院編「なせば成る」山形大学出版会 2012年2月20日 第5版 12ページ
- (4) 山形大学基盤教育院編「なせば成る」山形大学出版会 2012年2月20日 第5版 13ページ
- (5) 小川博久著「保育者養成論」 萌文書林 2013年4月30日 初版 218ページ
- (6) 小川博久著「保育者養成論」 萌文書林 2013年4月30日 初版 219ページ
- (7) 主宰 松本なほ子 月刊「すこやかなれ子ども」 1986年1月25日 編集・発行(株)八達社 12月号 3ページ
- (8) 外山滋比古著「聡明な女の話し方」 1983年8月1日 22版 主婦と生活社 210ページ
- (9) 渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」 2015年11月10日 (株)幻冬社 149ページ

